

大阪市立大学外科専門研修プログラム

1. 大阪市立大学外科専門研修プログラムについて

大阪市立大学外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力およびそれを実践する判断力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に的確かつ標準的な医療を提供することにより患者への信頼を得て、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること。
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科）またはそれに準じた外科関連領域の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

そして取得した後は、外科専門医として標準的かつ包括的な外科医療を提供することにより地域医療を支え国民の健康・福祉に貢献する。また、外科領域診療に関わる最新の知識・技能を習得し、実践できる能力を養いつつ、この領域の学問的發展に貢献することを使命とする。

2. 研修プログラムの施設群

大阪市立大学医学部附属病院と連携施設（39施設）により専門研修施設群を構成します。

本専門研修施設群では163名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

専門研修基幹施設

名称	都道府県	1:消化器外科, 2:心臓血管外科, 3:呼吸器外科, 4. 小児外科, 5. 乳腺内分泌外科, 6. その他(救急含む)	1. 統括責任者 2. 統括副責任者
大阪市立大学医学部附属病院	大阪府	1.2.3.4.5.6	1. 柴田利彦 2. 大平雅一

専門研修連携施設

No.			連携施設担当者
-----	--	--	---------

1	地方独立行政法人 大阪 市民病院機構 大阪市立 総合医療センター	大阪府	1. 2. 3. 4.	日月 亜紀子
2	石切生喜病院	大阪府	1, 2, 3, 5, 6	上西 崇弘
3	社会医療法人生長会府中 病院	大阪府	1. 5. 6	内間 恭武
4	医療法人橘会 東住吉森 本病院	大阪府	1, 3, 4, 6	清田 誠志
5	一般財団法人 住友病院	大阪府	1, 2, 3, 5	西村 重彦
6	大阪府済生会野江病院	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6,	平居 秀和
7	育和会記念病院	大阪府	1、5、6	西森 武雄
8	宗教法人在日本南プレス ビテリアンミッション 淀 川キリスト教病院	大阪府	1, 3, 4, 5, 6	加地 政秀
9	社会医療法人 行岡医学 研究会 行岡病院	大阪府	1	高垣 敬一
10	ベルランド総合病院	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6	南村 弘佳
11	関西労災病院	兵庫県	1, 2, 3, 5, 6	岩田 隆
12	浅香山病院	大阪府	1, 5	坂田 親治
13	山本第三病院	大阪府	1	小川 正文
14	市立藤井寺市民病院	大阪府	1	福原 研一郎
15	市立柏原病院	大阪府	1. 5. 6	堀 武治
16	社会医療法人 景岳会 南大阪病院	大阪府	1, 3, 5, 6	藤尾 長久
17	医療法人生登会 寺元記 念病院	大阪府	1. 5. 6.	柳川 憲一
18	大阪赤十字病院	大阪府	4	岩出 珠幾
19	大阪市立十三市民病院	大阪府	1, 5, 6	井上 透
20	医療法人 寺西報恩会 長吉総合病院	大阪府	1, 6	村瀬 順哉
21	西宮協立脳神経外科病院	兵庫県	1、6	金宮 義哲
22	医療法人藤井会大東中央 病院	大阪府	1. 6.	三上 慎一
23	大阪掖済会病院	大阪府	1, 5, 6	澤田 鉄二

24	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	大阪府	1, 3	大植 雅之
25	大野記念病院	大阪府	1, 5, 6	大谷 博
26	ペガサス馬場記念病院	大阪府	1, 5, 6	寺岡 均
27	社会医療法人 三栄会 ツカザキ病院	兵庫県	1, 2, 5	安田 武生
28	明治橋病院 外科	大阪府	1, 5, 6	小山 剛
29	医療法人社団敬誠会合志病院	兵庫県	1, 6	寺倉 政伸
30	徳洲会 和泉市立病院	大阪府	1, 3, 5	澤田 隆吾
31	医療法人社団 松下会 白庭病院	奈良県	1, 2, 3, 5, 6	久保田太輔
32	医療法人宝生会 PL 病院	大阪府	1, 4, 6	須波 毅
33	国立循環器病研究センター	大阪府	2, 6	藤田 知之
34	高石加茂病院	大阪府	1, 6	高田 信康
35	守口生野記念病院	大阪府	1	横松 秀明
36	なにわ生野病院	大阪府	1, 5, 6	松岡 翼
37	泉大津市立病院	大阪府	1, 3, 4, 5, 6	渡邊高士
39	医療法人藤井会香芝生喜病院	奈良県	1, 4, 5	金沢 源一

3. 専攻医の受け入れ数について（外科専門研修プログラム整備基準5.5 参照）
本専門研修施設群の3年間NCD登録数は43,353例で、専門研修指導医は163名のため、本年度の募集専攻医数は20名です。

4. 外科専門研修について

1) 外科専門医は初期臨床研修修了後、3年（以上）の専門研修で育成されます。研修開始時点から日本外科学会会員でなければいけません。

➤ 3年間の専門研修期間中、本プログラムでは原則、最初の1年間は基幹施設である大阪市立大学医学部附属病院で研修し、2年度、3年度は連携施設で研修をするシステムです（採用人数によっては1年度に連携施設の場合もあります）。

➤ 専門研修の3年間に、医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その毎年度の終わりに達成度を評価して、基

本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

➤ 本プログラムは大阪市立大学医学部附属病院 消化器外科、心臓血管外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、救急救命センターならびに連携病院が一つになり行います。面談を密に行い、外科総論に重点をおきますが、個々の希望のサブスペシャリティ領域へつながるローテーションを行い、3年間で専攻医間に隔たりがないように規定症例数を経験できるようにします。その過程で、外科医として医師として患者との信頼関係の構築、常に学習して医療にフィードバックする姿勢を身に着けることも重要な研修項目にしています。すでに希望のサブスペシャリティがある場合には、入局しての専攻医修練も可能ですし、まだサブスペシャリティを決めていない場合は、研修プログラム修了後の入局も可能です。修了後の本人の希望（大学院進学、連携病院、他施設）に沿った進路を進んでもらいます。

➤ 本プログラムでは大学院へ進むのは専門研修修了後としています。

➤ サブスペシャルティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャルティ領域専門研修の開始と認める場合があります。サブスペシャルティ領域連動型については現時点では未定ですが、希望するサブスペシャルティ領域がある場合はその領域に重点をおいたローテーションを配慮します。

➤ 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。

➤ 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、100例まで手術症例数に加算することができます。

2) 年次毎の専門研修計画

➤ 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。

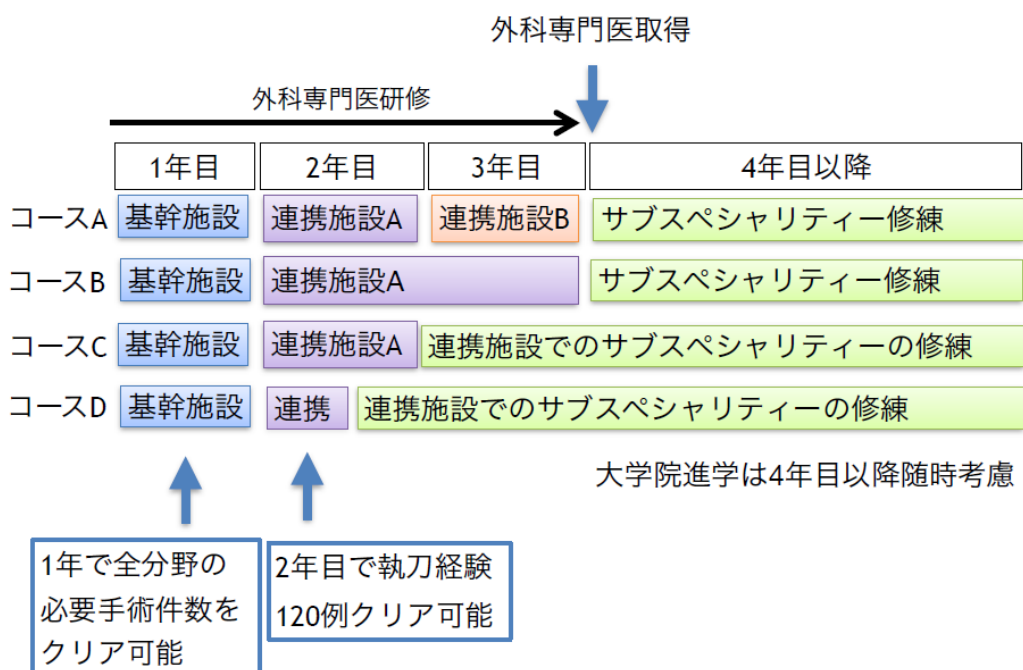
➤ 専門研修1年目では、原則大阪市立大学医学部附属病院をローテーションします。教育機関として基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。各サブスペシャルティ領域をローテーションすることで、広い視野で診察、治療する知識と技能の基本の習得を目標とします。大阪市立大学医学部附属病院では術前カンファレンスは多領域を一緒に行うので、他の領域を回っていても知識を習得することができます。専攻医は定期的開催されるカンファレンス（それぞれの診療部門の執刀医レベルの指導医によるモーニングレクチャー、

CPC、M-Mカンファ）や症例検討会、抄読会、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。特に医療倫理、医療安全、院内感染対策に関する講習は院内で通年行っており、積極的に参加してもらいます。

- 専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、1年目で得た外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。連携病院で執刀を含めた手術ならび術後管理を指導します。そして自ら執刀もしくは術後管理を通じて学んだことを学会・研究会への参加・発表を行い、そこでのディスカッションを通じてさらなる専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修3年目では、チーム医療の中で責任を持って診断、手術、術後管理を実践していく力量を養うことを目標とします。その中で、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮していくことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。
- 修了後は希望に応じて、大学研修、大学院進学、連携病院での研鑽を積んでもらい、サブスペシャリティ領域専門医取得を目指した技能研修へ進みます。

（具体例）

下図に大阪市立大学外科研修プログラムの概要を示します。専門研修1年目は基幹施設、2年目・3年目は連携施設での研修ですが、希望するサブスペシャリティの症例数も経験できるように配慮します。ただし、勤務される医療圏については差がないようにします。



	グループカンファレンス							
8:00~9:00			下部消化管		下部消化管			
11:00~12:00				上部消化管				

心臓血管外科

	月	火	水	木	金
8時	教授回診		術前カンファレンス		研究報告会
午前	手術	手術	手術	手術	手術
午後	手術	手術	手術	手術	手術
	1, 3週 TAVI	2, 4, 5週のみ手術			
	EVAR カンファレンス			TAVI カンファレンス	循環器カンファレンス

肝胆膵外科

		月	火	水	木	金	土	日
8:00~9:00	術前カンファレンス		○					
8:50~12:00	病棟業務	○	○	○	○	○		
8:50~	手術	○	○	○	○(第2週のみ)	○		
14:00~15:00	病棟回診		○					
17:00~18:00	病棟カンファレンス			○				
17:00~18:00	肝癌カンサーボード					○		
18:00~18:30	胆・膵カンサーボード			○				

呼吸器外科

		月	火	水	木	金	土	日
8:30~	回診	○	○	総回診	○	○		

8:50~	手術		第1・3週	○		○		
9:00~ 12:00	気管支鏡		○					
	グループカンファレンス							
8:00~ 9:00						術前カンファ		
17:00~		重症カンファ			がんサ ー ボ ー ド			

乳腺内分泌外科

		月	火	水	木	金	土	日
8:50~12:00	病棟業務	○	○	○	○	○		
8:50~	手術	○			○	○		
8:50~12:00	外来手術			○				
13:00~17:00	超音波検査			○				
13:00~14:00	総回診	○						
14:00~15:00	術前カンファレンス	○						
17:00~18:00	抄読会・カンファレンス	○						
	グループカンファレンス							
17:00~18:00				乳腺内分泌				

小児外科

		月	火	水	木	金	土	日
8:50~12:00	病棟業務(午前)	○	○	○		○		
13:00~16:00	病棟業務(午後)	○	○	○	○	○		
8:50~14:00	外来	○	○					
8:50~17:00	手術			○		○		
14:00~16:00	造影検査・処置	○		○				
	総回診	○						
14:00~15:00	術前カンファレンス	○						
18:00~18:30	全体ミーティング	○						

連携施設（例 石切生喜病院）

	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:00 手術症例カンファレンス			○			○	
9:00-12:30 外来診療(朝診)	○	○	○	○	○	○	
13:30-17:00 救急症例診療	○	○	○	○	○	○	
9:00-17:00 病棟業務	○	○	○	○	○	○	
9:30-11:00 総回診		○		○	○		
13:00-15:00 造影検査				○			
9:30- 手術(一般外科、小児外科、消化器外科)	○		○			○	
9:30- 手術(心臓血管外科)		○		○			
9:30- 手術(呼吸器外科)	○		○				
9:30- 手術(乳腺頭頸部外科)				○			
17:00-18:00 入院症例カンファレンス	○						
17:00-18:00 消化器疾患症例カンファレンス /Cancer board					○		
16:00-20:00 外来診療(夜診)	○	○	○	○	○		

研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール

研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール (案) 月	全体行事予定
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外科専門研修開始。専攻医および指導医に提出用資料の配布（大阪市立大学第1外科・第2外科ホームページ） ・ 日本外科学会参加（発表）
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修修了者：専門医認定審査申請・提出
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪市立大学外科学臨床研究検討会
1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本臨床外科学会参加（発表）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成（年次報告）（書類は翌月に提出） ・ 専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成（書類は翌月に提

	出) ・ 指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成（書類は翌月に提出)
3	・ その年度の研修終了

5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

➤ 専攻医研修マニュアルの到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、到達目標 3（学問的姿勢）、到達目標 4（倫理性、社会性など）を参照してください。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得（専攻医研修マニュアル-到達目標 3-参照）

➤ 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。

➤ 放射線診断・病理合同カンファレンス：手術症例を中心に放射線診断部とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比いたします。

➤ Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。

➤ 基幹施設と連携施設による症例検討会：各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を毎年1月に大学内の施設を用いて行い、発表内容、スライド資料の良否、発表態度などについて指導的立場の医師や同僚・後輩から質問を受けて討論を行います。

➤ 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。

➤ 教育DVDなどを用いて積極的に手術手技を学びます。

➤ 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。

◇ 標準的医療および今後期待される先進的医療

◇ 医療倫理、医療安全、院内感染対策

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

- 日本外科学会定期学術集會に1回以上参加
- 指定の学術集會や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

- 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナルリズム）
 - 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。
- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
 - 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえて患者ごとに的確な医療を目指します。
 - 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。
- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
 - 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。
- 4) チーム医療の一員として行動すること
 - チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
 - 的確なコンサルテーションを実践します。
 - 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。
- 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと

➤ 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。

6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること

- 健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
- 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
- 診断書、証明書が記載できます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは大阪市立大学医学部附属病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成してします。専攻医はこれらの施設群をローテーションすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。大学だけの研修では治療困難例や稀な疾患が中心となり、手術も難易度の高い手術が多く、common diseasesの経験が不十分となります。この点、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力そして治療を実践していく力を獲得します。本研修プログラムの連携施設は大阪市を中心に大阪府、兵庫県、奈良県にあります。比較的都市圏の施設が多いですが、地域の患者が最初に受診するいわゆる地域に根付いた病院が多いことが特徴です。そして各施設専攻医が執刀すべきCommon diseasesが多いのみならず、難易度の高い手術や救急診療も充実しており、初診から治療、そして治療後経過に一貫して関わることができ、専攻医がサブスペシャリティの専門医の研修をしていく上で、さらに自らが指導医の立場になったときの手本になる指導ができることを自負しています。そして連携施設では、指導医が準備した手術を執刀するのではなく、専攻医が主体となり指導医のもとで診断を行い、治療法を決め、患者にInformed consentを行い、手術を執刀そして術後管理が自分の判断でできるようになるのを全力でサポートします。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことが非常に大切です。大阪市立大学外科研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、大阪市立大学外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標3-参照）

地域の連携病院では上記の如く、責任を持って多くの症例を経験することができ

ます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。本プログラムの連携病院にはその地域の患者にとって一番身近な存在としての施設が多く、初診・治療・外来Followと一貫して診ていくことが可能であります。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- 本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。
- 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

11. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である大阪市立大学医学部附属病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。大阪市立大学外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、6つの専門診療科（消化器外科・肝胆膵外科・心臓血管外科・呼吸器外科・小児外科・乳腺内分泌外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善への会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

12. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努

めます。

2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘル스에配慮し、チューター制を導入します。

3) 専攻医の勤務時間, 当直, 給与, 休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設, 各専門研修連携施設の施設規定に従います。

1 3. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

1 4. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
専攻医研修マニュアルVIIIを参照してください。

1 5. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式(専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録)を用いて、専攻医は研修実績(NCD登録)を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

大阪市立大学外科にて、専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

●専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

●指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

●専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

●指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

16. 専攻医の採用と修了

採用方法

大阪市立大学外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年5月から説明会等を行い、外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、期日までに（9月下旬ごろ：毎年公表します）研修プログラム責任者宛に所定の形式の『大阪市立大学外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。

申請書は

(1) ホームページよりダウンロード

① 大阪市立大学医学部附属病院ホームページ内の「後期臨床研修医（専攻医）募集情報サイト（<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/self/kenshui/sr/inter/index.shtml>）

もしくは大阪市立大学大学院 外科学講座（<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/ocum-surgery/index.html>）

2) 電話での問い合わせ

06-6645-3840（心臓血管外科教授室）

(3) e-mailで問い合わせ

① m8827074@msic.med.osaka-cu.ac.jp（肝胆膵外科 田中肖吾）

のいずれの方法でも入手可能です。

毎年10月15日を（一次）募集の締め切りとし、11月下旬までに書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については12月の大阪市立大学外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

※応募専攻医は日本専門医機構ホームページ内に登録しなければいけません（一次登録10月1日～11月15日）。

研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局(senmoni@jssoc.or.jp)および、外科研修委員会に提出します。

- ・ 専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
- ・ 専攻医の履歴書（様式15-3号）
- ・ 専攻医の初期研修修了証

修了要件

専攻医研修マニュアル参照